

埼玉県 AYA 世代がん患者の
終末期療養に関する実態
アンケート調査に係る報告書

【薬局】

アンケート調査概要

・調査日時

2023年11月15日(水)～2024年1月16日(火)

・調査対象

以下のすべての基準を満たすものを本調査の対象とする。

・埼玉県内にある地域がん診療連携拠点病院(国指定)、埼玉県がん診療指定病院(県指定)、小児がん拠点病院、在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所、保険薬局(地域連携、専門医療機関連携)、訪問看護ステーション(がん緩和対応)

(病院、診療所、薬局については関東信越厚生局のホームページから令和5年3月1日現在の届出受理医療機関を抽出、訪問看護ステーションについては、(一社)埼玉県訪問看護ステーション協会のホームページから「がん緩和」を抽出)

・令和5年に開催した「小児・AYA世代がん患者の終末期医療に関するオンライン研修会」の参加施設(病院を除く。)

・目的

思春期・若年成人世代がん患者の終末期療養に関わる医療者のニーズと直面する課題を明らかにすることで、適切な支援方法を探索する根拠とする。同時に、本調査を通してAYA支援に関する医療従事者への啓発、患者に対する情報提供資源の拡充などAYA世代がん患者に対する社会整備の一歩となることが期待される。

・調査方法

WEB 媒体でのアンケート調査による記述疫学調査

・回答率

<全体>

アンケート配布件数:160件

アンケート回収件数:42件

割合:26%

<薬局>

アンケート配布件数:7件

アンケート回収件数:1枚

割合:14%

設問内容

問1. 貴施設の基本情報等についてお伺いします。

- 1-1. 医療機関名を入力してください。
- 1-2. 医療圏を選択してください。
- 1-3. 分業形態を選択してください。
- 1-4. 貴施設で対応経験のあるがん患者の年齢を選択してください。(複数回答可)
- 1-5. 直近6か月間において1カ月あたりの15～19歳のAYA世代がん患者数を選択してください。
- 1-6. 直近6か月間において1か月あたりの20～39歳のAYA世代がん患者数を選択してください。

問2. 医療用麻薬についてお伺いします。

- 2-1. 医療用麻薬の取り扱いについて選択してください。
- 2-2. 麻薬処方せんの応需実績について入力してください。
- 2-3. 昨年度における、医療用麻薬の全体の仕入れ量に対するデッドストック(不良在庫)について該当するもの1つを選択してください

問3. 在宅訪問の実施状況についてお伺いします。

- 3-1. 現在、在宅患者訪問薬剤管理指導の実施状況を選択してください。
- 3-2. 訪問指導のために患者宅に訪問する常勤換算職員数を入力してください。
- 3-3. AYA世代がん患者に対する在宅患者訪問薬剤管理指導の経験について選択してください。
- 3-4. 直近6か月間における15～19歳のAYA世代がん患者について、訪問した数を選択してください。
- 3-5. 直近6か月間における20～39歳のAYA世代がん患者について、訪問した数を選択してください。
- 3-6. AYA世代がん患者1人に対する1か月あたりの平均的な訪問回数を選択してください。
- 3-7. AYA世代がん患者1人に対する平均的な介入期間を選択してください。
- 3-8. AYA世代がん患者への対応で、他の成人世代に比べて困難感を感じていますか。
- 3-9. 困難感を感じる場合の理由のうち、患者・家族側の課題を選択してください。(上位3つまで)
- 3-10. 困難感を感じる場合の理由のうち、医療・社会側の課題を選択してください。(上位3つまで)
- 3-11. 上記「3-10」で「9.その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。
- 3-12. AYA世代がん患者への在宅患者訪問薬剤管理指導の経験がない場合、その理由を選択してください。
- 3-13. 対応できなかった場合の理由を選択してください。(上位3つまで)
- 3-14. 上記「3-13」で「9.その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

3-15. AYA 世代がん患者に対する、在宅患者訪問薬剤管理指導の導入や提供件数を増やすにあたって必要だと思うものを選択してください。(あてはまるものすべて)

3-16. 上記「3-15」で「14.その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

問4. 在宅緩和ケアに関する知識の充足状況について選択してください。

問5. 医療機関や介護事業所との協力・連携についてお伺いします。

5-1. どの程度できていると思いますか。

5-2. 協力・連携が十分に行えていないと感じる医療機関・施設を選択してください。

問1.貴施設の基本情報等について

1-2.医療圏

	件数
1. 南部	0
2. 南西部	0
3. 東部	0
4. さいたま	0
5. 県央	1
6. 川越比企	0
7. 西部	0
8. 利根	0
9. 北部	0
10. 秩父	0
計	1

1-3.分業形態

	件数
1. 診療所(門前・敷地内)	1
2. 病院(門前・敷地内)	0
3. 医療モール	0
4. 面分業(ドラッグストア併設)	0
5. 面分業(ドラッグストア非併設)	0
計	1

1-4.対応経験のあるがん患者の年齢(複数回答可)

	件数
1. 小児	0
2. AYA 世代(15~19歳)	0
3. AYA 世代(20~39歳)	0
4. 40歳以上の成人	1
計	1

1-5./1-6.直近6か月間において1か月あたりのAYA世代がん患者数

	AYA世代 (15~19歳)	AYA世代 (20~39歳)
1. 0人	1	0
2. 1~2人	0	1
3. 3~10人	0	0
4. 11人以上	0	0
5. 統計がない、対応していない	0	0
計	1	1

問2.医療用麻薬について

2-1.医療用麻薬の取り扱い

	件数
1. 扱っている	1
2. 扱っていない	0
計	1

2-2.麻薬処方せんの応需実績

	枚数
月平均あたりの麻薬処方せん	20
計	20

2-3.昨年度における、医療用麻薬の全体の仕入れ量に対するデッドストック(不良在庫)

	件数
1. デッドストックはない	0
2. 20%未満	0
3. 20%~40%未満	1
4. 40%~60%未満	0
5. 60~80%未満	0
6. 80%以上	0
7. その他	0
計	1

問3. 在宅訪問の実施状況について

3-1. 現在、在宅患者訪問薬剤管理指導の実施状況

	件数
1. 行っている	1
2. 行っていない	0
計	1

3-2. 訪問指導のために患者宅に訪問する常勤換算職員数

	人数
薬剤師	2
計	2

3-3. AYA 世代がん患者に対する在宅患者訪問薬剤管理指導の経験

	件数
1. 経験がある	1
2. 経験がない	0
計	1

3-4./3-5. 直近6か月間におけるAYA世代がん患者について訪問した数

	AYA 世代 (15~19歳)	AYA 世代 (20~39歳)
1. 0人	1	0
2. 1~2人	0	1
3. 3~10人	0	0
4. 11人以上	0	0
5. 統計がない、対応していない	0	0
計	1	1

3-6.AYA 世代がん患者1人に対する1か月あたりの平均的な訪問回数

	件数
1. 1~2回	1
2. 3~5回	0
3. 6~10回	0
4. 11回以上	0
5. 訪問指導等をしていない	0
計	1

3-7.AYA 世代がん患者1人に対する平均的な介入期間

	件数
1. 1か月未満	1
2. 1~2か月	0
3. 3~6か月	0
4. 7~12か月	0
5. 1年以上	0
6. 訪問指導等を行っていない	0
計	1

3-8. AYA 世代がん患者への対応で、他の成人世代に比べて困難を感じるか

	件数
1. 常を感じている	0
2. 常にはないが他の成人世代よりも困難と感じる	1
3. 感じていない(他の成人世代と同様)	0
計	1

3-9. 困難感を感じる場合の理由のうち、患者・家族側の課題(上位3つまで選択)

	件数
1. 患者の発達年齢に応じたコミュニケーションをとることが難しい	0
2. 家族とコミュニケーションをとることが難しい	1
3. 患者・家族への精神的ケアが難しい	1
4. 患者本人と家族とで意向の食い違いがある場合、対応に苦慮することがある	0
5. 医療者から患者・家族への告知状況が不明	1
6. 患者・家族の病状理解が不明	1
7. 世帯構成(一人暮らし等)により在宅療養の希望が実現できないことがある	0

3-10./3-11.困難感を感じる場合の理由のうち、医療・社会側の課題(上位3つまで選択)

	件数
1. 医療方針や最新の投薬状況がわかりづらい	1
2. 鎮痛や呼吸困難感など症状の緩和・今後の予測が難しい	0
3. 薬剤の手配・交付が難しい	0
4. 死亡等により返却された薬剤の管理・廃棄が難しい	1
5. 自施設の医療従事者の人手が不足している	1
6. 自施設の医療従事者の知識・技術に不安がある	1
7. 医療者の精神的負担が大きい	0
8. 介護制度を利用できず、介護体制が十分に確保できない	1
9. その他	0

3-12.AYA 世代がん患者への在宅患者訪問薬剤管理指導の経験がない場合の理由

	件数
1. 訪問希望の患者はいたが患者側の理由で対応できなかった	0
2. 訪問希望の患者はいたが医療機関側の理由で対応できなかった	0
3. 対象患者がいなかった	1
計	1

3-13./3-14.対応できなかった場合の理由(上位3つまで)

回答の該当なし

3-15./3-16.AYA 世代がん患者に対する、在宅患者訪問薬剤管理指導の導入や提供件数を増やすにあたって必要だと思うもの(あてはまるものすべて)

	件数
1. AYA 世代がんの知識	1
2. AYA 世代がん患者に対する緩和ケアの知識	1
3. AYA 世代がん患者に対するコミュニケーションスキルの習得	1
4. AYA 世代がん患者を抱える家族への対応方法	1
5. 医療者に対する精神的ケア	1
6. 病院との連携	1
7. 在宅医療を行う診療所との連携	1
8. 訪問看護ステーションとの連携	1
9. 訪問薬剤管理指導、居宅療養管理指導にかかわる薬剤師の増員	1
10. 退院後のスムーズな在宅移行の実現	1
11. 在宅患者調剤加算等の診療報酬の引き上げ	1
12. 在宅患者調剤加算等の診療報酬の引き下げ	1
13. 患者・家族への周知と需要・ニーズの発掘	1
14. その他	0

問 4. 在宅緩和ケアに関する知識の充足状況について

	件数
1. 充足している	0
2. やや充足している	0
3. やや不足している	0
4. 不足している	1
計	1

問 5. 医療機関や介護事業所との協力・連携について

5-1. どの程度できているか

	件数
1. 障壁・もどかしさを感じている	1
2. 現状、特に障壁を感じない	0
計	1

5-2. 協力・連携が十分に行えていないと感じる医療機関・施設

	件数
1. 医療機関(がん拠点病院)	0
2. 医療機関(病院)	0
3. 医療機関(診療所)	0
4. 自施設以外の薬局	0
5. 訪問看護ステーション	1
6. 自治体	0
計	1

以上